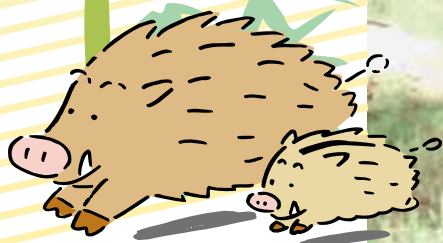


ちょっと気になる八王子マガジン

はち ちと ひ



2019年 新風号

No.41

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉

特集

!!
わがまち八王子
探訪シリーズ

「由井」

片倉城跡公園の水車（野中慎介氏撮影）

由井地域を深〜く知る！ その1

“歴史探訪コース”

北野駅〜山田駅

由井地域を深〜く知る！ その2

“新風体感コース”

片倉駅〜八王子みなみ野駅

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌⑦

コラム 八王子の原風景⑦

私の本はこうして生まれた 其の四十一

宇津貫みどりの会

副業・農家の暮らしを支えた手の技

八王子みなみ野——新風景の誕生と地名

『尾崎文英歌集 折り鶴』 尾崎文英 著

佐藤 広

馬場喜信

深〜く

由井地域を知る! その1

歴史探訪コース

「はちとぴ」では、今号から市内特定の地域の歴史や見どころを取り上げる八王子探訪シリーズをスタートします。第1回は由井地域。

最初に紹介するのは、京王線北野駅から湯殿川、北野街道に沿って京王高尾線山田駅へと至る「歴史探訪コース」です。

◎参考文献 ・片倉町一丁目町会『わがまち片倉町一丁目』
・由井西部地域住民協議会編『由井市民センター開設二十周年記念誌』

はちとぴ
観光★
——特撰——



1955年に現在の八王子市域が誕生する前、この地域は「由井村」と呼ばれていました。さかのぼること江戸時代には打越村、宇津貫村、片倉村、北野村、小比企村、西長沼村の6か村が由井村域を構成していました。

そもそも「由井」という地名の縁起は何でしょうか。由来の1つと考えられているのは、平安時代、八王子市域（武蔵国）にあった「由井牧」です。当時、現在の関東地域一帯には京の都まで馬を献上するための牧がいくつも置かれていました。武蔵国にその1つ、「由井」の名のつく牧があつたのです。牧は後に各地で武士団結成を促すことになります。八王子市域は、そのなかでも有力な武士団、横山党が支配していたのですが、鎌倉幕府の内紛に加担して滅亡。その後、鎌倉幕府初期重臣の大江広元に所領が与えられ、広元の次男、時広の代に長井姓を名乗つて領有し、大江氏系統の長井氏が治めるようになります。やがて大石氏、その後、に治めた北条氏も八王子市域を含む自身の領地を由井領と呼称していることから、「由井」は八王子で古くから使われていた呼び名でもありました。

①田植えの像 ②北野石器時代住居跡
③住吉神社 ④樽井神社
⑤大津大仏 ⑥大津大仏
⑦斟珠寺 ⑧カタクリ橋



由井地域を 知る！ 歴史探訪コース

深く

- ① 京王線北野駅
(田植えの像)
8分 ← 0.3 km
- ② 北野天満社
(北野石器時代住居跡)
18分 ← 1.0 km
- ③ 梅洞寺
27分 ← 1.5 km
- ④ 慈眼寺
15分 ← 0.8 km
- ⑤ 片倉城跡公園
5分 ← 0.2 km
- ⑥ 住吉神社
19分 ← 1.0 km
- ⑦ 斟珠寺
9分 ← 0.4 km
- ⑧ カタクリ橋
8分 ← 0.3 km
- ⑨ 小比企稻荷社
8分 ← 0.3 km
- ⑩ 長慶寺
10分 ← 0.5 km
- ⑪ 大林寺
20分 ← 1.2 km
- ⑫ 六地藏
26分 ← 1.4 km
- ⑬ 京王高尾線山田駅

なつかれさま
でした！

★「北野」の由来

京王線北野駅北口を降りると、1981年に北野土地区画整理事業完成記念として建てられた①田植えの像が見えます。旧北野村をはじめ由井地域一帯には、かつて水田が広がっていました。いまでこそ宅地開発が進み、面影はほとんど感じられませんが、往時の由井地域を象徴する像ともいえます。

八王子バイパス近くにある北野天満社は、横山党の一族が京都の北野天満宮を勧請してできた神社で、「北野」の地名の由来ともなった場所です。本殿の裏手には、紀元前2000年の縄文時代後期の住居跡といわれる②北野石器時代住居跡があります。1941年に当時の由井第一小学校敷地内で発見された遺跡で、1963年の区画整理に伴い現在地に移転されました。2本の石棒を伴う敷石住居として注目され、市の史跡に指定されています。

八王子バイパスを南に辿り、打越交差点で北野街道を

西に向かうと、打越八幡社です。そこから少し進むと室町時代に創建された③梅洞寺があります。寺の裏手には、太平洋戦争中、本土決戦用予備資材集積のための地下壕が掘られていました。

★片倉城跡を闊歩

湯殿川を上流に沿って進むと、赤い山門が特徴的な④慈眼寺があります。国道16号を出て、北に進むと、左に見えるのが⑤片倉城跡公園です。ここにはかつて中世城郭の典型を示す片倉城がありました。応永年間ころに鎌倉幕府初期の重臣、大江広元の子孫である長井氏が築城したといわれていますが、定かではありません。長井氏は16世紀初頭に滅亡し、同じくして片倉城も廃城となりました。城はその後、大石氏の支配を経て、北条氏照の滝山城の支城の1つになりましたが、八王子城とともに1590年に滅ぼされました。1972年に自然環境を活かした市立片倉城跡公園が開園。1999年には本都指定史跡になり、現在は本

ひと休み コラム

めかご

目粗の粗い竹かご「めかご」は、かつて農家の台所で重宝された民具です。地元では「めかい」「めけえ」とも呼ばれていました。

江戸時代に由井村宇津貫で農家の副業としてのめかごをつくるようになり、やがて由木村、多摩村へ伝播していったようです。1914年に刊行された『東京府南多摩郡農会史』には、明治末年に南多摩郡全体で約350軒の農家が年間53万個のめかごを生産していたという記録があります。とくに盛んに行われていた宇津貫の農家では、秋から冬にかけての農閑期に山で材料となる篠竹を刈り入れ、家族や友人たちとでめかごづくりに励んでいました。しかし、時代は移り変わり、農家が少なくなった現在の由井地域では、農家の副業としてのめかごをつくる人はいなくなりました。

◀▼めかご



▲つくりかけのめかご



▲めかごづくりの道具

丸と二の丸が広場になっています。

片倉城跡公園入口からすぐ、南へ急な階段を登ったところに**⑥住吉神社**があります。ここは片倉城本丸の北東、鬼門の位置にあたり、長井氏、または長井氏一族の毛利師親が鬼門除けとして大阪の住吉大社を勧請したとされています。同社には1851年に片倉村の川幡元右衛門とその門人たちによって、和算の問題と解答を墨書した「算額」が奉納されています。算額とは、江戸時代に和算の問題が解けたことを神仏に感謝し、ますます勉強に励めるよう祈願して奉納したもの。2011年に市有形文化財に指定されています。

★北野街道沿いの寺社

北野街道沿いの、**⑦斟珠寺**にあるのが、弁財天湧水池。弁天池のなかには斟珠寺の鎮守、「大辨財尊天」があります。また、斟珠寺には戦国時代から「五輪様」と名づけて崇めてきた五輪塔もあります。もともと現在の京王片倉

駅近くの丘の上にあったものが斟珠寺に移されました。いつのころからか、祈願をすれば悩みを取り払ってくれ、病氣も治してくれる神仏として崇拜されるようになり、毎年八十八夜の日に行われる弁天様の祭りと合わせて、五輪様の供養も行われています。

湯殿川に架かる**⑧カタクリ橋**の辺りには、かつて用水路から水田まで水をひく堰がありました。また、この辺りには1940年代までボート場もあり、ひょうたん型の池の周りには桜が植えられ、小さな売店がありました。冬になると、スケート場としても人気があったそうです。

由井第三小学校に隣接して、小比企地域の信仰を集める**⑨小比企稻荷社**があります。1190年の鎮座で、現在の社殿は1847年に完成したとされ、社殿完成の際にはお神楽と相撲大会が行われました。相撲大会は明治初期までしばしば行われ、神楽殿西側の広場には相撲場という名前がいまも残っています。60年に1度、式年動座祭とい

う大祭があり、ご神体が地域を巡行する神事があります。

⑩長慶寺や**⑪大林寺**、先に紹介した梅洞寺では、戦時中、品川区立立会国民学校の児童を学童疎開で受け入れていました。また、大林寺の西側から磯沼牧場北側の丘陵の段壁には、トンネルが確認されています。これは三鷹航空機工業が、敗戦2か月前に地下工場にするために掘った地下壕です。

小比企町交差点を右に曲がり、道なりに進むと京王高尾線山田駅に至ります。

★お地藏さまにお参りを

少し足をのびして、小比企町交差点を左に進む細道が旧北野街道です。道なりに進むと、しばらくして**⑫六地藏**があります。四角い石碑の三方に地藏が2体ずつ彫られています。200年以上前に村人の無病息災を願い、疫病が村に入らないように、八王子、寺田、津久井それぞれから村に入る3つの道が交わる場所に鎮座されました。ここが由井村の西端に当たります。

ここでもかごづくりを指導しているのが、八王子みなみ野シティ開発時に地域の伝統文化を継承するべく立ち上げた、由井地区「ふるさと資料館」建設推進委員会の面々です。資料館は日の目をみていないのですが、めかごづくりの技法を継承するなど、「ふるさと資料室」を通じて地域の歴史や民俗を語り継いできました。とはいえ、継承し続けるというのなかなか難しく、次の世代が育っていないのが悩みの種だそうです。「継承する団体が育ってくればいいのですが」と次世代に期待するのは、会の現代表で、由井市民センターみなみ野分館の館長も務めている糠信富雄さん。



▲糠信富雄さん



▲ふるさと資料室

会ではふるさと資料室だけでなく、地元七国中学校の生徒たちにもかごの説明や編み方を教えるなど、伝承活動を幅広く続けています。糠信さんは、「編むのは、やればすぐ覚えられるんですが、かごの形に立ち上げる作業、巻きながらキュッと引く張っていく作業が難しいんですよ」と、めかごづくりのコツを分かりやすく解説。かつてこの地で盛んだった、めかごづくりの文化を次世代に伝えるために、地元の方々による地道な伝承活動が続けられています。

◎参考文献

・由井地区「ふるさと資料館」建設推進委員会『めかご——八王子市宇津貫町における「目籠づくり」の現状調査——』

●由井市民センターみなみ野分館
みなみ野1-7-11
☎(637) 4122

深〜く

★由井地域を知る！ その2

“新風体感コース”

続いてご紹介するのは、JR横浜線片倉駅から八王子みなみ野シティを巡って八王子みなみ野駅へと至るルートです。ここ30年ほどの間に新しく開発された由井地域の変遷を辿ります。

◎参考文献 ・都市再生機構編『八王子みなみ野シティ まちづくりのあゆみ』
・由井西部地域住民協議会編『由井市民センター開設三十周年記念誌』

はちとぴ 観光★

——特撰——



◎八王子ニュータウン

由井地域の様相を大きく変えたのが、八王子ニュータウン（八王子みなみ野シティ）構想です。

かつてこの一帯は、山林原野が多くを占め、兵衛川から枝分かれした谷戸筋に小規模な集落が点在する地域でした。また、道筋も狭く、公共交通機関もありませんでした。高度な都市性と里山を基調としたリゾート性を共に享受できる街を基本コンセプトとした八王子ニュータウンの構想は、1980年の開発基

本構想提示から本格化し、1989年から本格的な造成工事が始まりました。計画に沿って、約400ヘクタールの土地に、住宅や道路、公園、公共施設、商業施設などが次々と整備。小学校、中学校、保育園が開校、開園し、交通の拠点となる八王子みなみ野駅が開業した1997年に入居が開始されました。その後、2013年に事業が終了するまで、大規模な宅地開発が行われ、年々賑わいが増していきましました。また、地域の自然保全やコミュニティ育成のため、さまざまなイベントも展開されています。



▲1994年 造成中のみなみ野地区★



▼現在のみなみ野地区★



★印の写真は『由井市民センター開設三十周年記念誌』より

由井地域を知る！ 新風体感コース

深〜く

- ① 片倉駅 7分 ← 0.3 km
- ② 由井市民センター 5分 ← 0.2 km
- ③ 片倉城跡公園 15分 ← 0.8 km
- ④ 由井事務所 10分 ← 0.5 km
- ⑤ 竜泉寺の湯 10分 ← 0.5 km
- ⑥ 片倉つどいの森公園 28分 ← 1.5 km
- ⑦ 栃谷戸公園 6分 ← 0.2 km
- ⑧ 日野自動車21世紀センター 16分 ← 0.9 km
- ⑨ 宇津貫公園 19分 ← 1.0 km
- ⑩ 宇津貫緑地 30分 ← 1.8 km
- ⑪ 由井市民センター 10分 ← 0.5 km
- ⑫ 八王子みなみ野駅

マイペースで歩きましょう！





③



★②

由井地域新風 体感散策MAP

- ① 片倉駅
- ② 由井市民センター
- ③ 片倉城跡公園
- ④ 由井事務所
- ⑤ 竜泉寺の湯
- ⑥ 片倉つどいの森公園
- ⑦ 栃谷戸公園
- ⑧ 日野自動車21世紀センター
- ⑨ 宇津貫公園
- ⑩ 宇津貫緑地
- ⑪ 由井市民センターみなみ野分館
- ⑫ 八王子みなみ野駅



④



⑤



⑥



⑦



★⑪



⑩



⑧

★片倉駅を起点に

①片倉駅は、もともと1942年に設置された横浜線の信号所に過ぎなかったのですが、1957年に駅に昇格しました。横浜線が複線化した1988年には高架駅として生まれ変わり、区画整理事業によって駅前ロータリーも完成。現在の姿になりました。

駅から少し歩いたところに2階建ての②由井市民センターがあります。1988年に開設したセンター内には地区図書室や体育館が整備され、地域のサークル活動などが活発に行われています。2018年には開設30周年を迎えて記念式典を挙行し、記念誌も刊行。同年に「地域福祉推進拠点 由井」も開設しました。

★自然と彫刻の調和

国道16号沿いに出ると、③片倉城跡公園があります。広大な園内には豊かな自然環境が残っています。たとえば彫刻広場から本丸広場に向かう小道沿いは四季折々の花が楽

しめる散策コースになっています。その北東斜面は早春に咲くうす紫のカタクリの花の群生地として知られているほか、ヤマブキソウやニリンソウなども群生しています。この地域で昔から群生しているカタクリは、「片倉」の地名の由来の1つでもあります。園の奥には2003年に再建された水車小屋、そばに崖から湧き出る清水を利用したショウブ田もあります。初夏には、さまざまな色のハナショウブも楽しめます。

片倉城跡公園は彫刻のある公園としても知られています。長崎の「平和祈念像」の作者として有名な彫刻家、北村西望が自らこの公園を希望して設置した代表作「浦島——長寿の舞」をはじめ、西望賞（北村西望を記念して設けられた、優れた彫刻家に与えられる賞）受賞者作品の数々が園内にあります。

★新しい由井村の姿

北野街道を西に進むと、左手に④由井事務所が見えてきます。かつて京王片倉駅南側

にあった由井村役場は、由井事務所となってから現在地に移転しました。南多摩郡16町村の1つであった由井村は郡内のほぼ中央に位置し、面積は約15平方キロメートル。村内はほとんどが農地で、東部に水田、西部に麦などを育てる畑作地帯が広がっていました。緩やかな丘陵が広がり、雑木林も多い土地でした。

つどいの森入口交差点を左に曲がると、16種の風呂やサウナ、7種類の岩盤浴場を備える大規模入浴施設、⑤竜泉寺の湯があります。血流が数倍にもなるという高濃度炭酸泉や美肌成分を含んだ良質な天然温泉を楽しめます。

少し高台に見えるのは、2010年に開園した⑥片倉つどいの森公園。9・1ヘクタールを誇るみなみ野エリアの代表的公園です。自然林や広場を活かしたつくりになっていて、広い原っぱからは富士山や高尾山などの山々を眺めることができます。風揚げ、ウォーキング、バーベキューなど、多くの老若男女でにぎわっています。また、地域の

ひと休み
コラムFM
八王子

「放送局の重さを考えてなかったから始められたのかもしれないですね」

開局時をこう振り返るのは、現在八王子FM代表を務める中野健次郎さん。中野さんがラジオ局づくりに挑んだのは60歳を過ぎてからのこと。それまで音楽プロデューサーをしていて、新人プロモーションの手段としてラジオ局をよく利用していたこともあって、以前からラジオとの深いつながりがありました。

そんな中野さんが八王子でのラジオ局づくりを意識したのは、東日本大震災の直後。近所の飲食店で防災時にラジオが役立つことを知り、店主に「つくっちゃえば」と水を向けられたことがきっかけでした。調べてみると、地震の際には地域のコミュニティFMが有効であること、さらに市内でもこれまでラジオ局設立の動きがあったものの、さまざまな理由で潰れてしまったことも分かりました。

立ち上げにあたって総務省に出向いた中野さんですが、担当者に「5〜10名のコミュニティFMでも、県域FM局と同じことをやらなければならぬですよ」と、設立の覚悟を問われます。少し怖気づいたものの乗りかかった船ということで、中野さんはラジオ局設立に邁進しました。まずは地域内に適度な周波数があるか、お金をかけて調べなければなりません。中には開局したくても、周囲に影響を及ぼさないで、空いている周波数がないために断念する自治体もあるのですが、幸い八王子では77・5メガヘル



▶八王子FM外観

イベントも多く、2018年には八王子流鏑馬も開催されました。園内には、つどいの池をバックにした森のステージ（野外ステージ）と階段状の客席を備えた観劇スペースがあるほか、非常時の災害時物資運搬拠点として整備もされています。

★谷戸のくらし

八王子ニュータウン開発前の由井地域は、「谷戸」と呼ばれる谷すじに沿って小規模な集落が点在する地域でした。そんな谷戸の姿をそのまま公園にした**⑦ 栃谷戸公園**は、里山の風景を再現し、石橋や段々畑を模した景色が人気です。展望台からは富士山を望むことができ、「関東富士見百景」に選ばれています。

栃谷戸公園の少し先には、日野自動車の研修施設、**⑧ 日野自動車21世紀センター**があります。併設する「日野オートプラザ」は、日野自動車の歴史を学べる博物館です。エントランスから2階に上がる

と、ミニカーやジオラマの展示があり、創業から現在に至る日野自動車の歴史を辿ることが出来ます。円形の展示場内には、ボンネットバス、EV商用車、エンジンなどが展示されており、屋外展示も含めて一部の車両の中に入ることも出来ます。開館時間は10時～16時（入館は15時まで）、休館日は第1・3・5土曜日、日曜日、夏季連休、冬季連休、5月連休。

七国とみなみ野の間の道を進むと、**⑨ 宇津貫公園**があります。八王子ニュータウン開発地域の樹木を移植したり、伐採木をリサイクルするなどして、2005年に開園した公園です。中央には大きな広場と斜面を生かした芝生広場があり、この斜面頂上からも富士山を望むことが出来ます。

宇津貫公園を右折し、40メートルほど進んで左折。道なりに進むと、横浜線沿いに、広さ16ヘクタールにも及ぶ**⑩ 宇津貫緑地**があります。開発の進んだ八王子ニュータウンのなかで、いまでも蜚が生息するなど、かつてこの地

域にあった自然を体感できる貴重な場所です。開発時から宇津貫みどりの会が保全活動を続けています（P10参照）。

★八王子みなみ野駅周辺

みなみ野駅近く、片柳学園第3学生会館の2階にある**⑪ 由井市民センターみなみ野分館**は2010年の開設。館内の「ふるさと資料室」には、この地域の歴史や民俗が紹介されています。また、由井市民センターみなみ野図書館も併設し、会議室や多目的室などを使って地元サークルが活発に活動しています。

⑫ 八王子みなみ野駅は、八王子ニュータウンのまちびらきと合わせて1997年に設置された、モノレールを除いて市内で最も新しい駅です。1970年代から片倉駅と相原駅の間に駅設置運動が展開され、当時は「宇津貫駅」と仮称されていました。八王子ニュータウンの交通拠点であるこの駅こそ、由井地域の「いま」を伝える中心的存在といえるでしょう。

ツが空いていたため、申請できました。その後も数多くの困難はあったものの驚くほどスムーズに話は進み、協力者も現れたことで、通常数年はかかるという開局が、なんと申請から1年後の2017年10月1日に成し遂げられたのです。

小さいラジオ局ですが、八王子FMも名の知れた大きな局と同じく、公共放送としての放送倫理が求められます。また、リスラジ（ラジオ音楽番組無料アプリ）を通じて世界中で聴くことも出来ます。八王子の情報はもちろん、有名人も積極的に登用しながら、魅力的な番組づくりを目指しているのです。その甲斐あって、日本にとどまらず、アメリカ、ロシア、イギリス、中国、韓国などからも番組へメールが寄せられるそうです。

中野さんはこの1年を、「忙しくて何が何だか分からないうちに過ぎていった」と振り返ります。そして、電波を使った八王子唯一のラジオ局として、市民に大切に育てていつてもらえるようなアイデアを模索しています。

「これから市民にとって重要なラジオ局をつくってきたい」と語る中野さん。あなたもリスナーとなって、あるいはサポーターや広告などを通じて、ラジオで八王子を盛り立ててみませんか。



▲代表の中野健次郎さん（右）と阿部友美子さん



▶オンエアの様子

●八王子FM
みなみ野4133-1
<https://775fm.com/>



の市民団体紹介

応援します
市民力。

市内で活躍する元気な団体・サークル・同好会を紹介するコーナーです。
活動内容やイベント情報など、編集部までお知らせください。

- ◆活動 日：毎月第1月曜日、第2日曜日、第3土曜日
- ◆時 間：9:00～11:30
- ◆活動 場所：宇津貫緑地
- ◆問い合わせ：636-2466（城所）

宇津貫みどりの会

里山に生き、里山を伝える

「宇津貫みどりの会」は、みなみ野シティのサンクチュアリともいわれる宇津貫緑地で、30年近く里山保全活動をしています。

会の発足は1991年。宇津貫町に惹かれて越してきた今村純子さんを中心に、女性ばかり15名で立ち上げました。

現在はみなみ野在住の方を中心とした約50名のメンバーが、月3、4回の山の手入れをベースに活動しています。特に大事なのが冬場の下草刈りや間伐、落ち葉掃き。こうすることで、春に多くの草花が芽吹いてくるのです。現在、会の代表を務める城所幸子さんは、「人間は緑と空気と水がないと生きていけないですね。そんなことが感じられる宇津貫緑地の自然のなかで、気の合う仲間と語らったり、保全活動にかかわったりすること自体が魅力なんです」と語ります。

里山の保全にとどまらず、たとえば七国中学校の総合学習で「めかご」づくりを支援したり、お月見の時期にお団子をつくったり

と、宇津貫地域でかつて当たり前に行われていた生活文化の継承にも努めています。昔の言い伝えや行事の由来を地元の古者から聞き取り、2002年には地図「宇津貫・片倉むかし道」、2007年には書籍『みなみ野のルーツ「谷戸のくらし」』を発行しました。「この地域はわりと昔ながらの文化が残っているんです。どんなすたれていってしまう、忘れられそうな文化をこれからも受け継いでいきたいですね」と城所さん。宇津貫の自然環境を保全し、里山の伝統文化を継承するために、いくつものアイデアを抱きながら、イベントや広報活動に積極的に取り組んでいます。



▲里山保全活動をするメンバー

はちとぴサポーターの会 会計報告

261,000円（2017年12月11日～2018年12月10日）

心よりお礼申し上げます。
引き続きよろしくお願いします。

はちとぴ32号にて「はちとぴサポーターの会」を立ち上げ、読者の皆さまに広くご寄付をお願いしました。その結果、非常に多くの方々より温かいご支援を賜りました。厚く御礼申し上げますとともに、上記の通り会計報告いたします。賜りました浄財をもとに今後とも魅力的な誌面づくりに努めます。



振込先 【はちとぴサポーターの会】

ゆうちょ銀行 □座番号 00110-4-0514170
※お問い合わせは【揺籃社→☎042-620-2615】

□ 1,000円
随時受付

※年1回、誌上にて会計報告します
※収集した個人情報は無断使用いたしません

はちとぴサポーター特典！ ご寄付いただいた方には自宅まで郵送します